

学校だより

大津市立葛川小中学校

平成27年10月号

紅葉祭

『今を楽しむ

テンションMAX』



「今を楽しむテンションMAX」、これが今年の紅葉祭のテーマ。紅葉祭に向けて、一学期から準備をスタートさせ、小中学生とも直前まで全力投球してきました。小学生は音楽劇「ピーター新喜劇」に挑戦しました。踊りの振り付けは、自分たちでアイデアを出し、修正を重ねながら進めてきました。また、台詞についても、元の台本そのままではなく、新喜劇の笑いの要素を取り入れ、楽しい作品となりました。20分を超える作品をノンストップで演じきる小学生の白熱した演技に、会場から、笑い感動の拍手が絶えませんでした。

会場には、保護者のみなさんの他に、地域の方々や卒業生、葛川小中学校に勤務された先生方など実に多くの方が、観客として応援に駆けつけてくださいました。そのことで、子どもたちのテンションはさらに絶好調に達したに違いありません。

中学生は、エンタテインメントを主とした「寸劇と動画」を披露しました。緻密に計算されたギャグ、ぼけと突っ込みなど、



さすが中学生。少ない人数で一人何役も兼ねながら、大道具、小道具の準備から演技までやりこなした中学生に、頼もしさを感じました。協力とか団結することで生まれる達成感と充実感を何よりも本人たちが味わったのではないのでしょうか。

幕間の時間には、小学校低学年の「水の入ったコップ」とハンドベルによる演奏、今宮さんによるフォークソングの熱唱、そして教職員全員による合唱をそれぞれ披露し、会場からは温かい拍手をいただきました。人前で、何かを表現することの楽しさをあらためて感じました。



そして、恒例の小中合同合奏。今年は『スター・ウ

ォーズ』を演奏しました。リズムの取り方と途中で拍子が変わるなどの難しい曲でした。教員も一緒に入って苦戦しながらも、楽しめました。午後からは、ふれあいタイム。



お化け屋敷、スタンプラリー、モグラたたき、YoYoだYoの4つのコーナーが設けられ、お子様連れもお年寄りの方も、にこにこ顔で楽しんでいただきました。ふれあいタイムは、児童会と生徒会が共創して作りあげる目玉の一つです。アイデアをだして、昨年とは違ったものを作るところに、子どもたちの主体性を強く感じます。

運動会に続き、二大行事の紅葉祭が無事終わり、子どもたちの成長ぶりが実感でき大変喜んでおります。保護者の皆様、地域の皆様の温かい応援のおかげです。本当にありがとうございました。

収穫の秋、おもざくざく

1学期に植えたサツマイモが収穫の時期を迎えました。



今回も寿会のみなさんのご指導をいただきながら、1・2年生の子どもたちが、いも掘りに挑戦しました。昨

年は、サルが囲いの網のすき間から侵入して、収穫前に根こそぎ食べられてしまい、収穫できたのは、ほんのわずかで細いものばかりでした。この話を聞いて、寿会さんが、囲いにパイプを補充し、さらに丈夫な網に交換してくださり、写真のような頑丈で立派な囲いができました。今年は、その中にサツマイモの苗を植えたので、安心して収穫の日を待つことができました。



まず、四方に伸びたつるを根元で切っていただき、その下を、子どもたちが胸をわくわくさせながら移植ごてで掘っていきます。表面が真っ赤でまるまると太ったサツマイモが、2個または3個顔を出すと、「やった！」などの歓声があがります。楽しみながら、ど



んどん作業が進み、掘り起こしたイモをバケツに入れて、一輪車まで。最後には一輪車に山盛りいっぱいサツマイモが並びました。